

# 県民参加 NPO等協働 通信

このコーナーでは、県民参加の活動事例や NPO 等との協働事例を紹介します。

## ～滝ダム湖活用社会実験について～



滝ダムの概観

### 1)はじめに

長内川流域は、昭和 41 年・42 年の久慈地方を襲った局地的な集中豪雨による洪水で、尊い人命と集落及び田・畑に甚大な被害に見舞われました。このため、久慈市及び地域住民のダム建設の要望が高まり、県では地元の要望を受けてダム建設を計画しました。昭和 43 年から調査・設計を開始し、昭和 48 年度にダム建設工事に着手。10 年の歳月と 146 億円の巨費を投じて、昭和 57 年度に滝ダムが完成しました。

完成以来、幾多の洪水調節や発電・灌漑用水の確保と河川環境保全の維持用水確保等、その役割を果たしてきた滝ダムは、「海の見えるダム」としても知られ、地域の方々の憩いの場として利用されています。

滝ダムは比較的手付かずの渓流の面影が感じられる自然景観が残され、野性動植物の生息にも適したダム湖です。湖面からの雄大な自然景観を多くの方々に知っていただき、自然の大切さ・環境保全の大切さを実感していただくとともに、周辺観光施設の活性化に繋がる湖面利用（遊覧船就航）が出来ないものかと、10 年ほど前から滝ダム管理事務所や県土整備部に地元から要望されてきました。

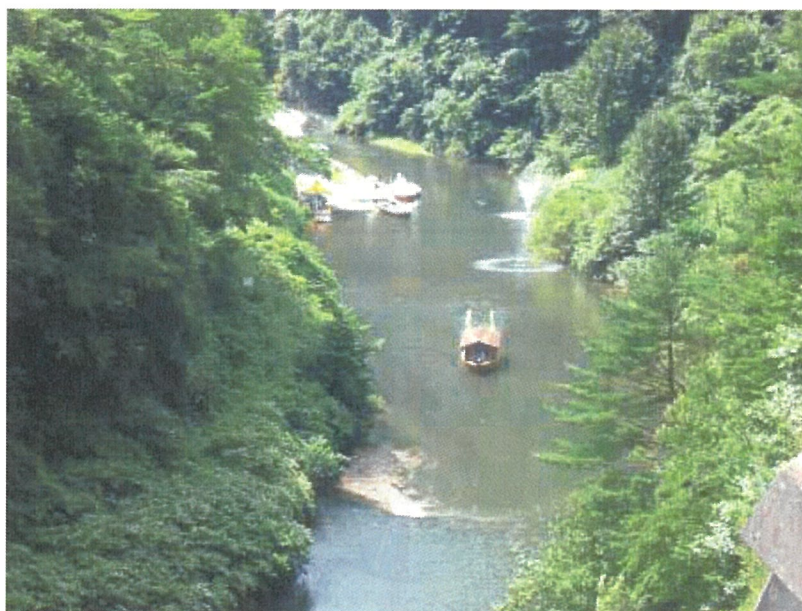
そこで、環境保全に対する意識の醸成や周辺観光施設の活性化、しいては地域の活性化に繋がる湖面利用であればとのことから、試験的運用として湖面利用の社会実験を行ったものです。

### 2)滝ダム湖活用社会実験の経緯

湖面利用（遊覧船就航）の運用については、以前からの経緯もあり個人での運用ではなく、NPO 法人或いは第三セクターでの運用を前提に模索してきました。

社会実験については、県内でも NPO 法人・地域づくりの団体等が行っており、それぞれに成果を収め地域の活性化に大きく貢献している事例があります。

久慈管内の NPO 法人「やませデザイン会議」は、地域づくりについても定款に明記し多様な活動を行っています。地元の民間企業と NPO 法人やませデザイン会議が協議した結果、試験的運用として「滝ダム湖活用社会実験」遊覧船周航を NPO 法人やませデザイン会議の主催で実施することになりました。





「滝ダム湖活用社会実験」計画の内容について実施計画書を取りまとめ、その内容について県土整備部河川課にも説明し内諾を受けて実施しました。社会実験計画書により遊覧船仮設棧橋の設置について、河川法（24・26条）占用許可申請が提出され、合わせて船舶の許可及び航路申請等の書類も提出していただき実施の運びとなりました。

以上のような経緯を経て「滝ダム湖活用社会実験」はスタートしました。



### 3)滝ダム湖活用社会実験の評価

「滝ダム湖活用社会実験」は、平成17年7月1日から8月26日までの57日間の運用とし、NPO法人やませデザイン会議が主催し、ヒカリ総合交通の屋形船及び和船を使用して運行しました。期間中の遊覧船乗客数は、1,775名（7月：715名、8月：1,060名）と多くの方々が乗船されました。

雨や風・台風といった事情で5日ほど運休しましたが、運航日平均乗船数は34名ほどとなり、短期間での準備や広報活動には大勢の方々に船上からの滝ダム湖及び湖周辺の自然を満喫していただいていると思っています。社会実験として短期間の遊覧船就航ではありましたが、乗船者数から判断して十分評価できるものと考えられます。

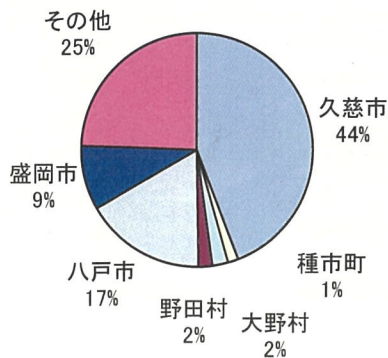
また、乗船された方々にアンケートを実施し、394名の方から回答をいただきました。居住地を尋ねたところ、久慈市内のお客様が44%と最も多く、続いて八戸市（17%）、盛岡市（9%）の順であり、久慈管内の市町村の方々が半数を占めていました。

遊覧船に乗って見ての感想としては、「とても良かった」・「良かった」が9割を超え、滝ダムの環境についても、9割の方々が「とても良かった」・「良かった」と好意的に評価しています。また、今後も企画されたら乗ってみたいと思いますか尋ねたところ、ほぼ全員がまた乗ってみたいとの回答でした。自由回答では、「秋の紅葉の時期にも見たい」、「環境が良い」、「定期的にやってほしい」などの意見・感想が多く寄せられました。

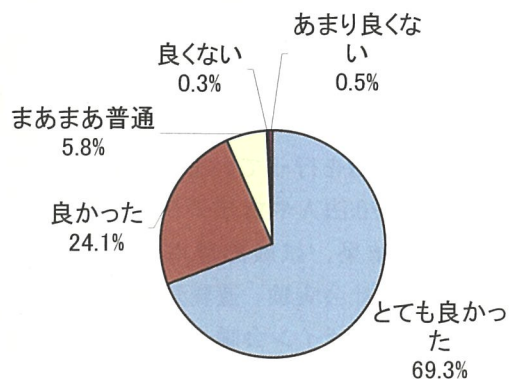
この度の「滝ダム湖活用社会実験」には、数多くの方々に乗船していただき、今後の遊覧船就航に対する期待が多く寄せられ成功裡に終了したと考えています。

#### アンケート結果

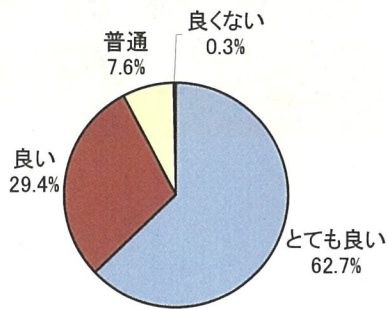
どちらから(市町村)いらっしゃいましたか



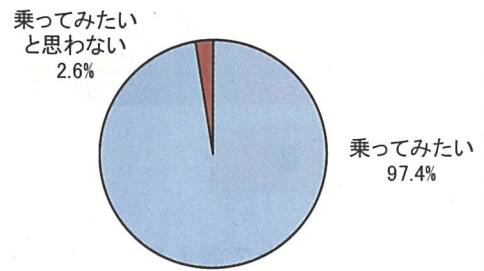
遊覧船に乗ってみていかがでしたか？



ダム湖・周辺の環境についてどう思いますか



今後も遊覧船が企画されたら、乗ってみたいですか



#### 4) 今後のあり方

「滝ダム湖活用社会実験」の結果として大きな成果が得られたことを今後のダム湖活用にどのような形で活かしていくのか検討する必要があります。

「NPO 法人やませデザイン会議」では、通年での運行を模索する上においても、秋季の遊覧船就航を社会実験として計画し、将来的な通年運行計画の検討を進めています。

しかし、通年運行計画に際しては、滝ダムの操作規則によるダム水位の課題があります。ダム湖の水位は、8月26日から11月5日までは制限水位の54.3mまで下げなければならない規則になっています。これは、台風シーズンの洪水期にダム水位を調節するためであり、久慈市民を洪水被害をから守るためのものです。従って、洪水期の2ヶ月は運行が非常に困難であり中断せざるを得ないと判断されます。二つ目は、駐車場の問題です。ダム湖親水広場には駐車場がありませんので、マイカーで来られた方には県道沿いの駐車場を利用いただき、徒歩で親水広場まで降りていただいておりますが、駐車場施設の要望が出されております。

今回の社会実験の成果を一つの契機として「NPO 法人やませデザイン会議」だけでなく久慈市を含む関係団体の連携により、新たな組織づくりについても検討を進めているところであり、継続できるダム湖活用を推し進め、新しい観光ルートの開発そして関連観光施設の活性化、しいては地域の活性化に貢献出来るものとの考えから活発な動きが見受けられます。

滝ダム管理事務所としても、「長内川流域連携協議会」の設立準備会を開催しており、今年度末を目標に協議会組織づくりを進めております（設立は民間団体組織）。流域連携をすることで、滝ダム湖の活用を含む観光施設や商業施設のイベント等について情報交換や情報の共有化などの活動等を行い、各施設間の連帯感の醸成と各施設の活性化及び地域の活性化に寄与することを目的として設立するものであり、滝ダム湖活用についても協力出来るところは協力していきたいと考えています。

